

平成30年度いばらきっ子郷土検定問題 解答と解説

東海村 解説

組	番	氏名
---	---	----

番号	解説	答
1	2003年12月に運転を始めた常陸那珂火力発電所は、石炭を燃料として1号機、2号機合わせて200万キロワットの発電能力があります。	3
2	東海村の鳥に制定されている鳥は、メジロです。東海村発足40周年を記念して、メジロを村の鳥に制定しました。メジロは村内に広く生息し、昔から地域の人々に親しまれてきたことから、村を象徴するにふさわしい鳥ということで決めました。	4
3	東海村には、白方コミュニティセンター、村松コミュニティセンター、真崎コミュニティセンター、石神コミュニティセンター、舟石川コミュニティセンター、中丸コミュニティセンターの6つのコミュニティセンターがあります。	1
4	東海村総合福祉センター「絆」は、2004年に開所し、現在は社会福祉協議会が中心となり多くの世代や住民に向けた様々な社会福祉活動を行っています。	2
5	真崎浦は東海村の東南端、ひたちなか市に接しています。真崎浦は、100年前までは村松沼・薦沼(ともぬま)あるいは素絹の沼ともよばれた沼でした。海から吹く常風は砂を運んで川を埋め、大雨のたびに沼水はあふれるなど大きな被害を与えました。西野長次郎は、干拓願いを水戸藩に提出し、1856年(安政3年)から干拓を始めました。1938年(昭和13年)に干拓事業は終わり、現在は広大な水田地帯となっています。	4
6	村松茂清(むらまつしげきよ)は、江戸時代の数学者、和算家です。常陸国那珂郡の出身で、1663年(寛文3年)に日本で初めて円周率を小数第7桁まで数学的に計算した数学者です。	2
7	東海村発足30周年を記念して、スカシユリを村の花に制定しました。スカシユリは、本州の北部に分布し、村では砂丘に群落が見られます。花は、真夏に咲き、明るく情熱的で、太陽に向かって咲くことから発展向上を意味し、村を象徴するにふさわしい花ということで決めました。	3
8	東海村の紋章は「とうかい」の「と」を原子力の γ (ガンマー)と太平洋の波で模様化したものです。	1
9	1980年(昭和55年)11月、東海村合併25周年記念事業のひとつとして東海音頭が作られました。歌っているのは都はるみさんです。	2
10	1979年から始まった東海まつりは、今年で第40回大会を迎えました。東海中の先生と東海南中の先生による綱引き大会や東海音頭、おみこし、花火大会など、節目の年にふさわしい盛り上がりとなりました。	4
11	城主は佐竹氏家臣の石神小野崎氏です。1602年(慶長7年)佐竹義宣の秋田移封にしたがってこの地を去り、石神城は廃城になりました。	3
12	東海村は、1955年(昭和30年)3月31日、町村合併法によって村松村と石神村が合併し東海村となりました。	1
13	2013年(平成25年)に白方地区の西光遺跡において、農道整備事業に伴い発掘調査をしていたところ、旧石器時代にあたる約3万3000～3万1000年前の地層から、ナイフ形石器3点と、石器を作製するための道具や破片が出土しました。	3
14	ヤンサマチには大きく分けて二つの行事がありました。一つは「浜降り」と呼ばれるもので、もう一つは「競馬祭り」でした。「豊年満作」「浜大漁」「家内安全」を祈る行事でした。この競馬には、須和間の馬が必ず参加しました。ちなみに、ワーホイは小正月の14日にその年の豊作を願う行事。カッペリモチは、小川の土手にもちを供え、水神様に子どもの水難除けを祈る行事。セイモンバレは「誓文ばらい」ともい、ヒイラギの枝に豆腐とニンニクを刺して蔵や母屋の出入り口に飾り、疫病や悪魔祓いをする行事。	2
15	東海村外宿浄水場は、久慈川を水源として、沈殿やろ過などの処理を行って各家庭・学校・地域へ届けています。また、水が足りなくなる時には、茨城県から水を買って、須和間配水場からも家庭に送っています。	4
16	東海村とアイダホフォールズ市(アメリカ合衆国アイダホ州)は、1981年(昭和56年)に原子力が縁で国際親善姉妹都市となりました。	1
17	東海村ではいろいろな農産物が生産されています。米は約300ヘクタールの土地で生産されています。「ほしいも」の原料として村の南側ではサツマイモが多く生産され約200ヘクタールの土地で生産されています。(のびゆく東海11改訂P38参照)	3
18	ひたちなか警察署東海地区交番は、平成29年3月31日よりJR東海駅西口前に移転しました。	2
19	照沼家住宅主屋(てるぬまけじゅうたくおもや)は、東海村唯一の国登録有形文化財です。2007年(平成19年)に登録されました。茅葺屋根(かやぶきやね)で曲り屋形式の民家です。当地の豪農住宅の特徴をよく留めています。	4
20	山田修村長は、東海村の8代目の村長です。ちなみに、初代村長は川崎義彦氏で、川崎氏は3代と5代も務めました。なお、2代と4代は根本時之介氏、6代は須藤富雄氏、7代は村上達也氏でした。	1
21	東海村立白方小学校出身の吉村真晴選手は、2016年のリオデジャネイロオリンピックにおいて男子団体の部で銅メダルを獲得しました。また、今年行われた世界卓球選手権では、石川佳純選手とのペアで出場した混合ダブルスの部で金メダル、丹羽孝希選手とのペアで出場した男子ダブルスの部で銅メダルを獲得しました。	2
22	2019年に茨城県で行われる国民体育大会を「いきいき茨城ゆめ国体」といいます。前回(1974年 第29回)は、「水と緑のまごころ国体」でした。東海村は、前回も今回も東海村はホッケーの実施会場です。9月には阿漕ヶ浦公園と東海高校にてリハーサル大会が開催されました。	3
23	権現山古墳は、全長87メートル、後円部直径45メートル、高さ5.5メートルです。南側の一部を除いて墳丘はよく保存されています。尾根上を利用してつくられたもので、久慈川流域の古墳を理解するうえで極めて重要です。	4
24	真崎浦の出入り口付近の村々には、室町末期から江戸時代はじめにかけ、風の影響も手伝って砂に埋まってしまふ被害が深刻でした。大風が続いたことによって村が埋まって消えてしまった伝説を千々乱風伝説といいます。J-PARC建設に伴い、2003年から1年5ヶ月にわたり建設予定地であった村松白根遺跡を発掘調査したところ、製塩跡、製塩に従事した人々が生活したと思われる建物や墓石などが発見されました。	